

# 六甲カトリック教会 教会報



## 試練のうちにご復活を迎える

クルーズ船を糸口として、中国、アジア・ヨーロッパ諸国、アメリカ、南半球まで。世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス。これほどまでに拡がるとは思いませんでした。クラスター、オーバーシュートなどと耳新しい言葉が飛び交い、医療現場のみに限らず経済社会にも大きく影響しています。おりしも教会は四旬節から「ご復活」にかかる最も大切な時期。せめて聖週間だけでもミサを捧げることが出来ないか。アルフレド主任司祭も懸命に模索されているようです。信徒としても長らくミサに与れないのは本意ではありません。しかし、そんな中、兵庫県では感染者数が少しずつ増えているのも気になるところです。大阪教区本部は「聖週間の大切な時期にミサが出来ないのは悲しいことだが、この痛みを感じながら多くの人が置かれている苦しい状況を心に留めて過ごすように、この災禍の一日も早い終息の為に祈る」とメッセージされました。教皇フランシスコも3月8日と25日にはお祈りを捧げられました。私たちが「六甲教会の祈り」をもう一度紐解いてみましょう。—すべてを吟味して何が神の御旨であるかを識別し、すべてにおいて神を見出すことができますように—いかなる状況にあっても私たちは、主イエスのご復活を讃美し祝福できますように。

### 防災委員会発足にあたって

昨年6月より、アルフレド神父様のご指導の下、防災計画プロジェクトチームがスタートいたしました。このプロジェクトチームは、東南海・南海地震対策としての地震訓練を目指し、地震防災体制、地震発生時の基本的対応、地震訓練シナリオ等の検討をおこなってまいりました。

おかげさまで皆様のご協力のもと、1月26日(日)10時ミサ後、第1回目の地震訓練を行うことができました。地震訓練につきましては、ミサに与っておられる方々に地震発生直後に取っていただく行動の周知、避難誘導のタイミング等まだまだ改善する課題があります。また、教会の防災対策は地震訓練だけでなく、火災等その他の災害も考慮しなければなりません。

このため六甲教会の防災に関する必要な事項を審議し、震災、火災その他の災害の防止を図ることを目的とした「六甲カトリック教会防災委員会」が新年度より発足いたしました。防災委員会の当面の活動は、地震防災組織の確立、防災備蓄品の準備、および避難通路の表示等を計画しています。

防災委員会の活動に当たり、信徒の皆様のご協力をお願いするとともに、防災に関するご意見ご提案等がありましたら、防災委員会までご連絡いただきますようお願いいたします。

防災委員会 堤 福生

## 2019年度 第6回小教区評議会準備会(評議会に代わる会議) 議事録

日時:2020年3月1日 12:00~13:30

場所:信徒会館第4会議室

参加者(敬称略):アルフレド主任司祭、中村治也(議長)、鍵山浩三(副議長)、  
保坂真理(副議長)、岩田聖代(書記)、増田瑠美(書記)、井川直哉(地区会)

### 1. 主任司祭の挨拶

・新型コロナウイルスの影響のため、3月8日開催予定の小教区評議会を中止とし、  
本日開催の小教区評議会準備会にて議事を協議し承認のうえ、決定事項とする。

### 2. 決定事項

#### (1) 第6回小教区評議会(3月8日予定)の中止(上記のとおり)

今後も、緊急で決定や連絡が必要な事項が生じた場合、臨時で小教区評議会を招集することに代わり、本日のように、主任司祭と評議会議長団の協議を踏まえて決定し、評議員各位に連絡することがあり得る。

#### (2) 復活祭お祝い会(4月12日)の中止

例年立食スタイルで行われていた復活祭ミサ後のパーティーは今回の事態を鑑み中止とする。

#### (3) 初聖体・祝福式お祝い会(4月19日)の縮小開催検討

開催を前提に、本人と保護者など最小限の参加者で規模縮小し、内容は保護者の方々にご提案頂く。

以下、第6回小教区評議会にて予定していた協議事項

#### (4) 「六甲カトリック教会防災委員会規程」の承認

規程本文について、原案を微修正の上、承認

#### (5) 2020年度平和旬間行事の進め方

宣教部を中心に企画を進めるが、多くの人の協力が望まれる。

### 3. 報告事項

#### (1) 主任司祭より

・小学校等が3月2日より休校になるため、仕事に行かれる信徒の方のお子様を教会で預かり、有志の方にお世話をさせていただく。(小学生)

・事務所の阪田岐代子様が3月末日をもって退職される。 以上

2020年度 第1回小教区評議会 5月10日(日)12時30分より 於:信徒会館第4会議室



## 聖香油ミサ



4月8日(水) 11:00~カテドラル

聖香油のミサでは、《病者の油》と《洗礼志願者の油》が祝福され、『聖香油の油』は聖別されます。そしてこの日聖別された油は、一年間、各小教区で使われることとなります。

聖香油のミサのときに読まれる福音は、毎年同じ箇所、ルカの4章16節より21節です。

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。」また、このミサ中、金祝銀祝のお祝いも行われます。

今年、六甲カトリック教会 中村神父さまも叙階50周年の金祝を迎えられます。



## グループ紹介 幼児を持つ親の集い

毎月第3日曜日の10時のごミサの後、第5会議室で行っています。

乳幼児とその保護者の集まりです。

小さな子どもを持っている保護者の方は、子どもがミサの間じっとできない、泣いたりして周りの方に迷惑をかけてしまうんじゃないか、などを心配していらっしゃると思います。

そんな保護者の皆さんと日常の出来事や子育ての疑問・悩みなどを分かち合っています。

気候の良いときはザビエルハウスのお庭で分かち合いをしたり、クリスマスには皆で持ち寄りパーティーをしたり、楽しい分かち合いの時間を過ごしています。

お父さんお母さんが分かち合いをしている間、子どもたちはお友達やベビーシッターのお姉さんと遊びます。もちろんお父さんお母さんと同じ部屋なので安心です。

乳幼児をお持ちの保護者の方、是非一度遊びにいらしてください。（佐藤 智子）

## 一斉地区会開催のお知らせ

信徒の皆様いつも地区会行事にご協力ご参加を頂き有難うございます。  
新年度が始まりました。年度初めに各地区それぞれに集まりを持ち、繋がりを広げ深めていきたいと思いつつ、開催できていないのが現状かと思えます。

そこで、今回初めての試みですが、一斉地区会を開催することになりました。

10時のミサ終了後、地区ごとに決められた部屋に移動し、地区会を開いて頂きます。

今回の一斉地区会は単なる顔合わせではなく、皆様にそれぞれの地区の現状を知って頂き、地区の抱える問題点や改善案などを共に考え、皆様から頂いたご意見を地区役員が役員会に持ち寄り話し合います。今後の地区会のあり方やより良い教会を目指すため、皆様のお考えを聞かせて頂く機会にしたいと思えます。日頃、皆様が感じておられる忌憚のないご意見ご提案を宜しくお願い致します。

教会行事をこなすだけの地区会ではなく、共同体の繋がりを広め、教会や地区のかかえる様々な問題を皆で話し合える地区会にしていきたいと思います。

一人でも多くの方のご参加をよろしくお願い致します。

ミサが終わりましたらお誘いあわせの上、各地区のお部屋にお集まりください。

日時 2020年5月10日(日) 10時ミサ終了後～12:00

《 各地区の集合場所 》

東灘北2・芦屋	・・・・・・	イグナチオ ホール
灘北1・北・三田	・・・・・・	イグナチオホール
東灘南	・・・・・・	信徒会館
灘北2・阪神	・・・・・・	第4会議室
灘南・神戸西	・・・・・・	第1会議室
灘西・中央	・・・・・・	第2会議室
東灘北1	・・・・・・	第5会議室



## 「祈りと音楽の集い」2020年2月23日(日)

今回は広島からオルガニスト佐々木悠さん(エリザベト音楽大学専任講師)、奥様の声楽家佐々木有紀さんをお迎えして、～受難を覚えて～J.S.バッハと受難～をテーマに演奏していただいた。お二人の素晴らしい演奏家によって、とても有意義なひと時となった。

プログラムの第一部は、マタイ受難曲など J.S. バッハの作品と G. フレスコバルディの音楽の花束より「グレゴリオ聖歌 キリエの交唱」。グレゴリオ聖歌の演奏はチェルレウム・マーレが賛助出演した。

第二部は、O. メシアンのオルガンの書より「鳥たちの歌」、M. レーガーの「9つの小品」であった。

教会では2月26日(水)の灰の水曜日から四旬節に入る。その前にキリストの受難について思い巡らすことができたことは幸いであった。音楽という芸術表現を通し、イエスの生涯とはどのようなものだったか、神が私たちのことをどのくらい愛されているか、私たちはキリストの教えの

ように隣人を愛せているかなど、考えることができたように思う。

特に、第二部のメシアンの「鳥たちの歌」は、音楽が自然そのものを表現するという非常に高度なものであり、神が私たちのために偉大な自然を与えてくださったことを思い知らされた。また、小鳥と会話ができたという聖フランシスコの世界観にも触



れられたように思う。パパ様の名でもある聖フランシスコは、きっとこのような自然の偉大さを観想していたのだろう。

この「祈りと音楽の集い」を通し、この四旬節は特に教皇フランシスコの著書『ラウダート・シ』のインテル・エコロジーを黙想し、貧しい人たちへのエコな行動を心がけてみたいと思う。

(西川基之)



## 2020年度 祈りと音楽の集い ご案内

パイプオルガン移設と同時に行われている「祈りと音楽の集い」も開始以来10年の月日がたち、行事としても定着してきました。今年度も素晴らしいゲストと共に音楽と祈りのひと時を過ごしたいと思います。

ご近所、ご友人をお誘いの上是非ご参加ください。なお、詳細はチラシをご覧ください。

### ★今年度の予定

- ・ 6月28日(日)……オルガニスト富田一樹氏を迎えて
- ・ 11月1日(日)……死者の月によせて 出演:六甲教会音楽奉仕者ほか
- ・ 12月20日(日)……クリスマス音楽の集い 出演:六甲教会聖歌隊ほか
- ・ 2021年2月14日(日)……オルガニスト ジャン=フィリップ・メルカールト氏を迎えて

いずれも開演は14時

(音楽チーム)



### 社会活動部より

新型コロナウイルスの影響で、今月の活動(炊き出し、ふれあい広場、ともしび会等)の開催日時・場所に関しましては、全て未定となっております。ご了承ください。



## みんなの広場

### 奇跡と愛の力について

「人間の唯一の務めとは生きることであり、また幸せになること」、シンプルな思想だが、奥深い言葉に思える一。最近読んだ作家の藤田宜永の探偵小説『女神』の中に出てくる文章で、私の心にもじんわりと浸透してきている。

そんな事を考えたのは、5年前急性心筋梗塞を患い、生死の境をさまよい、何とか生還できた。しかし、その後うつ病を患い、長年の持病だった脊椎間狭窄症も悪化、様々な治療を試みたが、満足に歩けない状況が続いた。一度、六甲教会まで自宅マンションから30分かけてヨタヨタと歩いてみたが、たどり着いたとたん信徒会館で倒れこんでしまったこともあった。整形外科、整体治療、鍼灸など良いと思われる療法が効かなかった。

ところが、一年半前ぐらいのある日、突然快方に向かい、完全に歩けるようになった。今では、テニスコートで試合をするまでに回復した。

まさに「奇跡」としか言いようがない。

遠藤周作の著書『私にとって神とは』の中にこん

な項目がある。「聖書を読みましたら、イエスが奇跡をおこなったことが書いてありますが、とても信じられません。あなたは信じているのですか」。

これに対して著者の遠藤は様々なことを答える中で「聖書の中では、奇跡物語というのは私には余り迫力がありません。それより私の心には、なぐさめ物語、つまりイエスがなぐさめてやったことの方がじん胸に迫ってきます。(中略)ただしイエスの奇跡は、病気を治したとか死人を蘇らせたとかいろいろあるけれども、何より大切なことは、彼が愛によってやったということです。愛が抜けているものはイエスの奇跡ではありません。さっきも話したように、愛の力によってなされたことが奇跡です」。

冒頭のフレーズ「生きることであり、また幸せになること」には、愛の力が欠かせない。

私の「奇跡」には、イエス様であり、またその化身であるパートナーの愛の力があつたのだと信じる。

(フランシスコ・ザビエル)

### 阪田岐代子さんありがとう



長らく教会事務所にお勤めくださった阪田岐代子さんが、3月末でイエズス会との契約が満了となるので退職されました。お仕事は一段落されますが、教会の信徒として今まで通り教会に来られます。

後任は大鶴純子さんです。黒澤まさみさん、赤木涼子さんともどもよろしく願いいたします。

阪田さんお疲れ様でした。そして有難うございました。

以下は阪田さんからのごあいさつです。

いつの間にか、ほぼ20年もの間六甲教会でお世話になりました。信徒のみなさまのあたたかいご協力のおかげで大過なく過させていただきましたこと改めて御礼申し上げます。この間にお世話になった神父様は指折り数知れず、信徒のみなさまとも本当にたくさんの方々とお付き合いいただきました。至らぬこともあったと思いますが、居心地の良い教会でした。みなさまとお別れするわけではなく、これからも一信徒としてミサに参りますし、教会の仲間として一緒に活動させていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

阪田 岐代子





## 図書室より

### 2月に入った図書

☆すべてのいのちを守るため—教皇フランシスコ  
訪日講話集…カトリック中央協議会  
ミサ説教、各行事での講話など、日本司牧訪問  
中に行った十の公式スピーチと出発前のビデオメ  
ッセージ・帰途の機中での会見・ローマの一般謁

見での振り返りを収録。解説は若松英輔氏。カ  
ラー写真 16 ページ。

☆神さまの子どもたちへ—松浦 謙…新教出版  
子供とともに聞く日曜日の福音・A 年  
☆神さまの子どもたちへ2—松浦 謙…新教出版  
子供とともに聞く日曜日の福音・B 年



## 園芸だより



新型コロナウイルスの影響でいろいろな集いが  
中止になりました。瀬戸内海はキラキラと輝き、桜  
も開花をはじめの季節が巡ってきました。不安を  
あおられる日々ですが自然は春の息吹を私たち  
に運んでくれます。

3月のミサは行われていませんでしたが、通常と  
変わりなく教会の周囲をきれいに清掃や草抜きも  
されています。毎週、1回のお庭のお手入れも欠  
かさことなく若い方も積極的に参加してくださって

います。年末に植えた苗も成長し可憐に色とりど  
りの花を咲かせています。

平日は3階の司祭館の改修工事関係の車の駐  
車や騒音が聞こえています。学校が休講の子  
どもお預かり教室が行われ、限られたスペースの  
中でも子ども達は池の周りで元気に走り回って  
います。草抜きのお手伝いをしてくれる子どもの姿も  
見られ、それぞれの世代が集う元気な春のお庭  
です。

待たれる復活祭  
です。昨年、新しく  
植えられたソテツの  
葉も加えて枝の主  
日の準備をいたし  
ます。



( 施設管理部園芸係 貴島 )



## 墓地っ子だより

前日の風雨から一転してお天気恵まれた2月  
23(日)、春の墓参と17名の方の共同墓地への  
納骨が行われました。

このところ、個人墓地から共同墓地へ移られる方  
も増えているようですが、神父様が個人墓地の祝  
別を下さる際にお供させて頂いて私が目にし  
たお墓の中には、整備・清掃が必ずしも十分にな  
されておらず、雑草が伸び放題で「近隣の墓地に  
迷惑がかかっているのでは?」と思われるところも  
散見されました。こまめなお手入れをお願い致し

ます。なおその際、遠隔地のためなどで整備・清  
掃が困難な場合は、墓地委員会までご連絡下さ  
い。

また、イノシシの侵入による被害ですが、六甲教  
会関係者のお墓の周囲にフェンスを設置したこと  
や、イノシシの嫌がる薬剤を散布したことなど、対  
策の効果があつたようでこの冬は大きな被害の報  
告もなく、一安心といったところです。

( 六甲教会墓地委員会 )

六甲春秋

◆ 十字架を仰ぎつつ ◆

この2、3月の間に何度聞かされたことか、新聞もテレビも連日連夜にわたって、コロナウイルスの差し迫った脅威についてがなり立てた。いたずらに恐怖心は増大し、人に対する警戒心が深まった。心ないデマに踊らされて、自分なりの判断力をくらまされることもあったのでは。密閉空間や不特定の群衆がヤリダマに上がり、こうして各種の催し物は敬遠され、プロの猛者どもが競い合うスポーツも無観客が延期か中止かの踏み絵を強いられた。しかし今日も全くヒトケの絶えたまま、土俵上の関取り衆は死に物狂いで相手と戦っている。勝ちか負けか相撲の過酷な世界にウイルスは入り込めないのか、日ごろの鍛錬や節制が厳しい吟味に耐えている。空気中に浮遊するウイルスは微細で目に見えず、マスクなどで防除することは出来ないとも云われる。病原菌と戦い克服する各人が備える抵抗力・体力こそが問われている。よく食べ、よく歩み、よく働き、よく休息することをオロソカにして、人混みを避け部屋に閉じこもってただ寝転がってテレビ漬けでは覚束ないかぎり。

教会の内外も異様で未曾有の状況が続く。何と主日のミサが禁止され、週日のミサも研究会も集まりも一律に中止された結果、大小の聖堂には無人の静寂が支配している。このような光景を前に四旬節を過ごすことは、私には初めての失業体験でいたく慌てふためいている。しかしながら今は厳粛な四旬節のさなか、4月12日の主イエスの復活を目指して恵みと救いの日々になるよう、今年ならではの全くユニークな心準備を続けたい。イエスが復活したという神秘は私たちにどのような意味を持ち、恐れと

疑いにサイナマレル日々を支え導くのか。この災禍に何か福音的な音信・おとずれがあるのか。一つの驚きは、武漢に端を発しダイヤモンドプリンセス号の乗員に及ぶ騒動が、瞬く間に全世界に波及した事実である。今や好む好まざるに係らず世界は狭く小さくなり、我独りの安穩も没交渉もなく自国主義もあり得ない。人間の営みは全てグローバルなつながり・網目に必ず結ばれている。人間と物流と情報のネットワークがいかに緊密になり依存が深まったか、ただ驚き呆れるばかり。

見ることも掴むこともできない空気、どこにもここにも偏在し空気を呼吸することなしには生存できない者にとって、空気中に浮遊するコロナウイルスほど厄介な相手はいない。しかし観点を代えれば、空気は人間の憎しみや悲しみや殺す心にも譬えられ、その毒気の伝播によって人間世界は汚染され死滅する。3月8日の神戸新聞「正平調」は、オレオレ詐欺の根源に「三ダケ主義」を指摘していた。つまり、今だけ金だけ俺だけという恐ろしい心である。しかし全く反対のことにも気づく。つまり空気はイノチ、喜びと希望の現れ、恵みそのものである。我も彼も毎瞬間このイノチに活かされ、意識するしないに関わらずこの恵みを呼吸して生きている。相應の警戒を空気伝染に払いながらも、恵みとイノチである空気・聖霊の息吹をいつも胸一杯に呼吸しよう、恐れる心を捨てて。「自分のイノチのことで思い煩い、自分のカラダのことで思い煩うな。また自分のアスのことを思い煩うな」と、イエスは福音を告げている。

( 中村健三 合掌 )

## 【 2020 年 4 月 予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
					初金曜日ミサ 7:00 10:30 十字架の道行 10:00 ◎灘南・神戸西	
5	6	7	8	9	10	11
受難の主日 (枝の主日) 世界青年の日			聖香油ミサ 11:00 (カテドラル)	聖木曜日 (洗足式) 主の晩さんミサ 19:00	聖金曜日 (十字架礼拝) 主の受難ミサ 19:00 ◎灘西・中央	復活徹夜祭ミサ 19:00 (洗礼式)
12	13	14	15	16	17	18
復活の主日ミサ 7:30 10:00					◎東灘北1	教会学校 入学式・始業式
19	20	21	22	23	24	25
復活節第 2 主日 教会学校 初聖体・祝福式 地区役員会①13:00					◎東灘北2・芦屋	典礼部会 10:00
26	27	28	29	30		
復活節第 3 主日 施設管理部会 11:30			教会受付休み (昭和の日)			

◎は掃除当番地区です。

【編集後記】 コロナウイルスの世界的な蔓延で、初めての経験が積み重なる。ごミサが中止になり、テレワークや時差通勤、学校は長い休みになり、行き来は制限され、東京オリンピックまで延期になった。最初は不安がつのったが、今は開き直り、通常通り動き回ったあとは、うがい・手洗い・消毒を徹底し、免疫力を高めるため快食・快眠・ニコニコ笑って過ごし、そして神に祈ることかなと思っている（SEI）

次回5月号の発行は、4月25日(土)です。 原稿は毎月 15 日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。 皆様からの原稿をおまちしております。(広報部) <a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a>	<b>六甲カトリック教会</b> 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 E - メール renraku@rokko-catholic.jp 発行責任者 アルフレド・セゴビア
--	--